

25 年度事業報告書

介護保険制度が発足し13年が終わりました。振り返ると当初の介護保険の目的は、高齢によって日常生活が困難な方に対して。できるだけ最後まで人として幸せに生きていただくための支援をすることが、大きな目的とされてきました。それがこの数年、障害の原因となっている老化に対しての老年医学の発展とともに、単なるお世話の介護でなく肉体的老化、精神的老化を少しでも予防改善すること、すなわちエビデンスのある介護が求められてきました。老化に対して生理学的に理解し専門的な知識、技術の元できるだけ健康長寿を目指した介護が必要となり、結果として介護度の改善までできる介護学が少しずつ進んできた25年度の介護業界でした。さらに世界的には高齢化に対して高齢者の生活支援から一歩進み老化を“サルコペニア、フレイル”という言葉で表現しその対策が世界的に研究開発され、老年医学の未来が広がってまいりました。

社会福祉法人きたば会としましては、本日理事会で提出いたしました決算書のように、特別養護老人ホームの開設後経営的にも安定した1年でした。内容としまして、特別養護老人ホームささゆり苑は利用率100%、デイサービス空も毎日の利用率は90%を越えてきております。ただ在宅複合型施設ひろの里は利用率70%を前後し今後の対策が必要な状況です。しかし今後の高齢化社会を考えた場合きたば会としては、この状況を土台にして次の一歩を踏み出す時と考え、利用される方から受け入れていただけるサービス提供を目指し3つの理念を掲げその実現のために職員の教育、独自の介護ソフトの作成に取り掛かってまいりました。学校の協力によって専門知識を一日も早く取り入れ介護の専門性を理解した介護サービスから予防介護の提供できる施設を目指して3つの理念を実行していきたいと思っております。

3つの理念

- 1 利用者に癒しと安らぎを提供します。
- 2 事故のない安心と安全なサービスを提供します。
- 3 肉体的老化、精神的老化を予防しできるだけ健康長寿を目指した介護サービスを提供します。

このような方針の下運営してまいりましたが目指した組織の運営、人材の教育ともまだまだな結果しか出ておりません。

26年度はさらに一歩、組織の運営、人材の育成に努力してまいりますので理事の皆様のご理解とご支援をよろしく願いすることで25年度事業報告とさせていただきます。

平成26年5月20日
社会福祉法人 きたば会
理事長 北波利雄